

20

20

祝 / FL

昭和三十二年一月十日

史実調査参考資料報告

沖繩縣宮下郡城辺村

職官 陸軍軍醫大尉

氏名

[Redacted Name]

終戦時、
主たる
功績

所在地

昭和十五年五月十五日短期現役軍醫大尉補(主たる功績) 同年七月至百重島中尉(主たる功績) 隊副勤務 同年九月至百重島大尉(主たる功績) 同年八月十五日 百重島三向口 雨末終戦(主たる功績)

職名変更ハ
主たる功績
功績ヲ記ス

所属部隊

昭和十九年八月十五日 独立混成第六旅団砲兵隊 編成人員四〇名在 駐馬場成島曹長(主たる功績) 本隊三中队隊副 併生隊員 軍醫一名 下士官二名 兵十五名 以前、部隊

最後、所屬
部隊ヲ主
トシ、以前
ノ所屬部隊
ノ功績ヲ概
括ス

終戦(又は主
力)戦斗終
了後、概況

終戦後、現地自治(主たる功績) 十二月十五日准士官以下 米船ニテ内地ニ帰還、将校十七名中五名米軍ノ 手指示儀、沖繩本島ニ輸送セラル、十二月三日現地現 日本海防艦ニテ帰還、軍醫一名、兵二十名(主たる功績) 野戦病院ニ転居、二十一年一月十五日患者

最後、所屬
部隊ヲ主
トシ、以前
ノ所屬部隊
ノ功績ヲ概
括ス

備考

将校一部宛記載セシ中、復員者史実部ニ送付ス

備考

[Redacted Content]

備考

[Redacted Content]

備考

[Redacted Content]

史實調査參考資料報告

摘要

所屬部隊
(固有名稱)

獨之瀨成第六十旅團
砲兵隊

職官

砲兵隊本部附
陸軍中尉

終戦時ノモノヲ
記ス

全右所在地

沖繩縣宮古島

氏名

[Redacted Name]

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略
歴

昭和三七七至昭和三七四。滿洲國々境警備(昭和三七三同三四九二六
ノ三三三警備也)昭和三七四三至昭和三七九。奉天省海城附近警備。
昭和三七九三至昭和三八二。滿洲國吉林省附近警備。
昭和三八二四至昭和三八四。宮古島警備(昭和三八三三一
天(平
作戦終止)

職ノ變更及主ナ
ル參加戦闘名ヲ
記ス

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝
備ノ概要

歩兵第四九聯隊
迫撃第一大隊 昭和三七四三編成 昭和三八二五復員
本部 三中队 般列
砲兵隊 昭和三八二五編成
本部 三中队 般列
中隊 三 九式砲迫撃砲一八門
般列

所屬部隊作戦經
過ノ概要

昭和一九九一四
至二〇八一五
沖繩縣宮古島警備

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシ向ソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ併記ス

終戦(又ハ主力
ノ戦闘終了)後
後ノ概況

昭和三八二五
至三九一四
宮古島ニ於テ復員業務に従事
自昭和三〇一二二四
至昭和三一三三三
沖繩本島
昭和三一三七浦留上陸

歸還輸送ノ狀況
ヲモ併記ス

先
歸郷(又ハ連絡)

[Redacted]

其ノ他ノ參考事
項

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

62

62

史實調査參考資料報告

摘要

所屬(部隊)
(固有名稱)

獨立混成第六旅團砲兵隊

職官

陸軍少尉

全右所在地

沖繩縣宮古島

氏名

[Redacted Name]

終戦時ノモノヲ
記ス

支那事變以降ニ
於ケル自己ノ略
歴

昭和七年十月一日福知山砲兵隊第三中隊一隊、昭和八年十二月十四日島根砲兵隊
夜季奉 昭和七年五月十九日中隊中隊一隊、昭和八年八月十三日島根砲兵隊
(轉属) 昭和九年八月十五日独立混成第六旅團砲兵隊ニ轉属
爾后天一作戦参加

職ノ變更及主ナ
ル参加戦闘名ヲ
記ス

所在部隊ノ編成
年月日及編制裝
備ノ概要

但馬中隊大隊解散ニ伴
昭和九年八月十五日滿洲國牡丹江省興隆ニ編成
完結
編成
大隊中隊
三ヶ中隊(津浦線沿線砲兵六門)
三ヶ隊砲兵
特設部隊ニシテ兵員大多數ニ補充兵ナリ

所屬部隊作戦經
過ノ概要

昭和九年八月十五日 編成完結
昭和九年八月十七日 牡丹江出發
昭和九年九月二日 牛島山港出發
昭和九年九月十四日 沖繩縣宮古島ニ上陸
同島防衛ニ参加
昭和二十年四月一日 天一號作戦ニ参加

最後ノ所屬部隊
ヲ主ニシ向ソノ
以前ノ所屬部隊
ノ分ヲモ併記ス

終戦(又ハ主力
ノ戦闘終了)
後ノ概況

一終戦後食料不足ヲ苦シシニシテ主力以テ現地自衛
一部ニシテ我々兵隊ニ参加ス
二昭和二十年十二月十三日裡冰(津浦線以下)渡ルニシテ島根ニ渡ル
三昭和二十年十二月十五日島根指針機下ニ沖繩本島ニ移駐ス
四昭和二十年十二月十四日沖繩ニ上陸 沖繩屋敷砲台駐在所ノ所
上 昭和二十年三月二十三日中隊中隊一隊 帰還船ニ乗リ島根ニ上陸
米軍始末ニ参加ス 砲台ニシテ島根ニ上陸

歸還輸送ノ状況
ヲモ併記ス

歸郷(又ハ連絡)
先

[Redacted]

其ノ他ノ參考事
項

+

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

史實調査參考資料報告

摘要

所屬(固有名) 獨立混成第六旅団砲兵隊

職官 陸軍中尉

終戦時ノモノヲ記ス

全右所在地 神濱縣宮古島

氏名



支那事變以降ニ於ケル自己ノ略歴

昭和十七年四月二十日歩兵第三十八聯隊ヨリ迫撃中隊ニシテ大隊ニ轉任。昭和十九年八月十五日軍隊復歸ニ伴ヒ獨立混成第六旅団砲兵隊編入。同日、中隊長拜命。又一任、島嶼參加

職ノ變更及主ナル參加戰闘名ヲ記ス

所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要

昭和十九年八月十日、本旅団砲兵隊編成。編成(大隊中隊)右中隊砲連隊砲六門。其後部隊中隊長大多數補充あり

所屬部隊作戦經過ノ概要

昭和十九年八月十日、本旅団砲兵隊編成。昭和十九年八月十七日、神濱島に上陸。昭和十九年九月二日、釜山に上陸。昭和十九年九月十日、神濱島宮古島に上陸。昭和二十一年四月一日、一掃隊に加入。昭和二十一年四月一日、一掃隊に加入。

最後ノ所屬部隊ヲ主ニシ向ソノ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ併記ス

終戦(又ハ主力ノ戰闘終了)後ノ概況

一、終戦後、食料不足、苦シク、五トテ現況目下。昭和二十一年七月、本島に在リテ、糧食不足。昭和二十一年七月、本島に在リテ、糧食不足。昭和二十一年七月、本島に在リテ、糧食不足。

歸還輸送ノ狀況ヲモ併記ス

先 歸郷(又ハ連絡)



其ノ他ノ參考事項

其ノ他ノ參考事項

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

67

67

史實調査參考資料報告

摘要

所屬(部隊固有名)

獨立混成第六旅團砲兵隊

職官

陸軍少尉

全右所在地

神尾縣宮古島

氏名

[Redacted Name]

終戦時ノモノヲ記ス

支那事變以降ニ於ケル自己ノ略歴

昭和十七年四月二十五日歩兵第三十八聯隊ヨリ追撃中
第一大隊ニ轉属。昭和十九年八月十五日軍隊復帰
ニ伴ヒ獨立混成第六旅團砲兵隊編入。同日
中隊長拜命。之ニ任 野添加

職ノ變更及主ナル參加戰鬪名ヲ記ス

所在部隊ノ編成年月日及編制裝備ノ概要

昭和十九年八月十五日編成
昭和十九年八月十五日滿洲外杜母省興隆ニ編成
編成(大隊長) 三ノ中隊(中隊長) 砲兵六門
此後部隊中隊員大多數補充失テリ

最後ノ所屬部隊ヲ主ニシ向ソノ以前ノ所屬部隊ノ分ヲモ概記ス

所屬部隊作戦經過ノ概要

昭和十九年八月十五日編成
昭和十九年八月十七日杜母省出撃
昭和十九年九月二日釜山出撃
昭和十九年九月十日 神尾縣宮古島ニ上陸
昭和二十年四月一日 第一師外隊ニ分属

終戦(又ハ主力ノ戰鬪終了)後ノ概況

終戦後 食料不足ニ苦シム。在トテ現況自派
昭和二十年十月五日 部隊長官ニ復命
宮古島出撃後ノ概況
昭和二十年十月五日 米軍偵察機ニテ中隊
本島ニ移駐。宮古島ニ駐留
昭和二十年十月五日 中隊長官ニ復命
昭和二十年十月五日 中隊長官ニ復命

歸還輸送ノ狀況ヲモ併記ス

先 歸郷(又ハ連絡)

[Redacted]

其ノ他ノ參考事項

其ノ他

備考

將校ニ記載セシメ第一復員省史實部ニ送付ス

67

67

53

53

漢東上陸地支局		昭和二十一年三月		七	日
史実調査参考資料報告					
所属部隊	独立混成第六旅團砲兵隊職官	大隊長	職ノ変更	摘 要	
今右所在地	沖繩縣宮古郡城辺村	大隊長	職ノ変更	終戦時ノ	
支那華北以	昭和十八年十一月二十四日	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
降ヲ於テ自	昭和十九年四月二十日	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
己ノ略ヲ	昭和十九年五月一日	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
	昭和十九年五月一日	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
	昭和二十年二月二八日	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
所在部隊	滿洲國黑龍省納金附近警備	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
編成年月日	昭和十九年五月一日	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
及編制裝	乙 裝備	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
備ノ概要	昭和十九年八月十五日	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
所属部隊	宮古島警備	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
作戰經過	天一号作戰	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
概要		職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
終戦又ハ主	自 遣 作 業	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
力ノ戦ヲ終		職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
了シテ状況		職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
歸隊又ハ連		職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
絡一先		職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
其ノ他ノ参		職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
考事項		職ノ変更	職ノ変更	ノノ	
備考	呼校ニ記載セシモノ第一復員省史部ニ送付ス	職ノ変更	職ノ変更	ノノ	

漢東上陸地支局
 史実調査参考資料報告
 昭和二十一年三月
 七
 日

関東上陸地支局

昭和二十一年三月

×日

史実調査参考資料報告

所属部隊

独立混成隊

職名

摘要

今右所在地

沖繩縣宮古島

職名

中尉

終戦時ノモ
ノノ記ス

支那軍ニ以テ
降ルル自
己ノ略ヲ

自昭和十九年五月二十九日
昭和十九年八月十四日
昭和十九年九月十五日
昭和二十年八月十日

滿洲(密山)國境
警備
宮古島警備

職ノ変更
及主ナル
加戦斗名ヲ
記ス

所在部隊
編成年月日
及編制
概要

昭和十九年八月十五日編成(迫果大隊)
三ノ中隊段列本部ノ機乙裝備
一中隊迫果砲六門(獸馬編成七馬宮古島到)

大隊總員約六百名 看七ス

所属部隊
作戦經過
概要

昭和十九年九月二十二日
昭和二十年八月十五日

警備

最後ノ
部隊ヲ主
ニ尚ノ
以テノ所属
部隊ノ分ヲ
天概記ス

終戦(又主
力ノ戦斗終
了ノ状況

自恣作業

帰還輸送
ノ状況ヲ
併記ス

帰郷(又公
送)先

[Redacted]

其他ノ参
考事項

昭和二十年十月二十日自米船ヲ沖繩本島ニ抑留
昭和二十年三月二日自米船ヲ浦賀ニ向テ出帆
昭和二十年三月六日浦賀着

備考

呼称ニ記載スル第一復員省史部ニ送付ス

56

56